

第3号

2022年度報告

KUMAMOTO UNIVERSITY ARCHIVES

熊本大学文書館

NEWS LETTER



目次

2022年度の主な活動	
目録公開・資料利用 等.....	2
文書館企画展	
「末吉駿-コレクション 熊本の水とむきあう」.....	2-3
地域史料の活かし方.....	4
参加記-免田事件関連講義.....	5
ハンセン病関係資料の収集	
資料整理	
文書館市民研究員の活動	
科学研究費採択状況.....	6
見学受付と資料保存の取り組み	
2022年度を振り返って.....	7
所蔵・公開資料	
奥付.....	8

2022年度の主な活動

2022	04.25	文書館 WEB サイト「所蔵資料」ページ 公開目録更新
	06.27	第1回文書館運営委員会の開催
	09.27	第2回文書館運営委員会（書面会議）の開催
	12.05-16	文書館企画展「末吉駿一コレクション 熊本の水とむきあう」の開催
	12.28	第3回文書館運営委員会の開催
2023	02.15	「水俣病関係資料 リンク」ページの開設
	03.10	第4回文書館運営委員会の開催
	03.30	第5回文書館運営委員会（書面会議）の開催
	03.31	文書館 WEB サイト「所蔵資料」ページ 公開目録更新

2021年度までの活動はこちら

<http://archives.kumamoto-u.ac.jp/activity.html>



目録公開・資料利用等

2022年度

- ① 寄贈受入れ（0件） ② ウェブ目録・資料概要公開（7116点）
③ レファレンス・資料利用・見学・メディア対応（67件）※以下、内訳
資料利用（38件・約290点：閲覧 9件 撮影複写 12件 出版（放映）等 12件 貸出 1件 未公開資料の参照 4件）
学内利用（1件・10点）、メディア掲載・放映（13件）、レファレンス（8件）
資料保存や寄贈についての相談（1件）、見学（6件）

文書館企画展

「末吉駿一コレクション 熊本の水とむきあう」

末吉駿一さん（1929～2022年、元（株）マインド顧問、末吉・歴史文化研究所）は、熊本を中心とした地域の文化・歴史・景観を観光の立場から長年研究し情報を発信してきた、熊本観光の第一人者です。本展では、末吉さんの著作、制作物、取材ノート等約20点の展示から、熊本の水を愛し、水とむきあってきた末吉さんの仕事についてご紹介しました。熊本市は、市民の水道水の全てを豊富な地下水でまかなっている都市であり、市町村と協力しながら様々な地下水保全対策を実施してきました。2013年3月には、国連「生命の水」最優秀賞を受賞しています※。本展をとおして、末吉さんの仕事への熱意を学ぶとともに、熊本の身近な宝物である「水」について来館者のみなさまと一緒に考えることができたのではないかと思います。初日には末吉さんと家族ぐるみで付き合いがあられた蒲島知事にも会場にお越しいただき、熊本観光の発掘と発信に力を尽くされた末吉さんの資料群を一括して保存し公開する意義についてもお話がありました。

最後に、ご来場の皆様、ご協力・ご助言いただいた皆様、毎日会場にお運びいただき、来場者に声をかけてくださった末吉希巳子さん、そして本館の活動を最後まで気にかけてくださった末吉駿一さんに心より感謝申し上げます。

※参考ウェブサイト：熊本市役所環境局

https://www.city.kumamoto.jp/kankyo/hpkiji/pub/Detail.aspx?c_id=5&id=20463

会期	2022年12月5日(月)～16日(金)
	※土日休館
開館時間	10:00～16:00
会場	文書館資料調査研究室 (熊本大学全学教育棟1階E102)
対象	一般の方、無料
主催	熊本大学文書館
来場者数	119名
報道	2件(熊本日日新聞 2022.12.06, 西日本新聞 2022.11.22)



末吉駿一さん

(2019年 文書館閲覧室にて撮影)
2022年11月3日、奇しくも「文化の日」に逝去されました



左から 蒲島郁夫熊本県知事、田中前文書館長、末吉駿一さんの妻・末吉希巳子さん



末吉さんのご活動を来場者に紹介する希巳子さん



展示【第1部】の様子

展示構成と内容

※本館所蔵資料には資料IDを記しています

【第1部】末吉駿一氏と熊本

末吉氏の略歴と主要な著作・制作物をご紹介します。

- ・「阿蘇だより」第1号(KL01-01-495)
- ・「くまもとの旅」季刊 NO.1(KL01-01-479)
- ・「くまもとの旅」季刊 NO.95 特集:水紀行<阿蘇篇> (KL01-01-085)
- ・『熊本うんちくの旅』(KL01-03-431)
- ・『くまもと水のみばなし88話』
- ・『九州鉄道検定公式テキストブック 歴史・観光・文化』
- ・『くまもと「水」検定公式テキストブック』(KL01-03-437)
- ・『くまもと遺産 第一巻』(KL01-03-282)
- ・JR熊本えきギャラリーパネル展示用ポスター(KL01-08-048)
- ・末吉駿一氏愛用のカメラ(末吉希巳子氏から借用)

【第2部】水文化の国・熊本

熊本の水に関する制作物や収集資料、ノートやメモから、末吉氏が熊本の水をどうとらえてきたのかをたどりました。

- ・(紙資料一式)くまもとの水(KL01-04-013)
- ・くまもと水守2010例会プログラムとメモ(KL01-05-080)
- ・ノート(KL01-06-1~6)
 - *熊本のうんちくや観光ルート構想が書き込まれたノート群
- ・ポスター「水守」「水遺産」関係(KL01-08-048 他)
- ・パネル:末吉駿一水語録/ 地下水の仕組みと成り立ち/ 県内の水名所/ 水遺産・名水百選解説/ 熊本 水MAP
- ・熊本の水に関するクイズシート
 - *『くまもと「水」検定公式テキストブック』を参照し本館作成

企画展を終えて

企画展にあたり、展示資料の選出、展示室の構成、パネル作成等に携わらせていただきました。

展示準備の資料調査の過程で、末吉氏は熊本に魅了され、愛する熊本のすばらしさを広めるために生涯をささげた方であったという印象を受けました。そのため末吉氏の仕事の紹介にとどまらず、その仕事への情熱も感じられる展示にしたいととりくみました。本企画展のテーマは末吉氏の「熊本の水」への視点でしたので、展示資料としては、末吉氏の熊本や水に関する著作、熊本の水を多くの人に知ってもらいたいという熱意のこもった作成資料や手書きのノートを選出しました。また、その熱意が来場者にも伝わるよう、熊本の地下水や水遺産につ

いてのパネルを作成し、自由に閲覧できる書籍を展示ケース外に用意しました。来場者の方々には、展示資料をじっくり見ていただけたたり書籍を手にとっていただけたたりして、末吉氏の情熱を見て読んで知っていただけたのではないかと思います。

実際に資料と向き合い、展示やパネルの構成を考えてひとつの企画展をつくりあげる工程に関わることができ、貴重な経験となりました。

熊本大学大学院社会文化科学教育部博士前期課程
文化学専攻歴史学領域文化史学/文書館
鈴木 つむぎ

来場者ノートより ※たくさんメッセージをありがとうございました！

数多くの資料がなくならないよう祈るばかりです/ 大切な郷土史を次の世代に継いで行く事を頑張ります/ 熊本の歴史、加藤清正公の川造り等教えていただき、この10年は水検定から湧水迄ご指導いただきました。ありがたい経験をし、楽しい人生を送れそうです/ 「現場主義」を徹底的に実践され後進の指導と育成をなさっておられたお姿に接し、敬意を表します。常に柔和な姿勢でおられたのが思い出されます/ 末吉先生の歩かれた足跡を今日はあらためて感じ取ることができました/ 県庁の観光セクションや大学同窓会等で本当にお世話になりました!/ 熊本の水を当たり前のように思っていました、水源から下流までの水の流れなど勉強になりました

地域史料の活かし方—免田文書から学んだこと

熊本大学文書館がとりくむテーマの一つに「熊本を中心とした地域に関する資料」の保存・公開がありますが、ここでは地域に伝えられた歴史資料（地域史料）を活かすためには、いくつものハードルを飛び越える必要があることについて、免田文書を例に述べてみたいと思います。免田文書は、免田栄さんの生家に伝えられた中世以来の古文書群（あさぎり町指定有形文化財）です。

古文書は現役を退いた文書ですので大半は廃棄される運命にあります。それでも古文書を目にすることができるのは、何世代にもわたる古文書継承のバトンリレーがあったからです。免田家の当主も代々バトンを受け継いできましたが、免田文書の全貌が知られるようになったのは『熊本県史料 中世篇第四』に収録された1967年のことでした。熊本県でも相良家文書や阿蘇文書など大名や大寺社の古文書は昭和戦前期までに活字化されていますが、^{じかたもんじょ}地方文書（中世では地下文書と呼ぶ）が本格的に翻刻^{じげもんじょ}*されるのには、戦後の熊本県史編さん事業を待たねばならなかったのです。

しかし、免田文書の場合、活字化されてもそれを用いた研究は皆無の状態が最近まで続きました。その理由は二つあります。第一に、大半をしめる中世帳簿群の本来の姿が改変されたため、改変後の翻刻を用いても総合的な理解ができないこと。第二に、中世の地下文書には、支配階級の古文書を基準とした従来の古文書学では疑問視された様式や書体の文書が少なくなく、免田文書も信憑性に疑問が抱かれてきたためです。こうした限界を突破して、免田文書を研究材料として活かすためには、原本調査が不可欠となります。古文書の綿密な観察にもとづく様式・形態や書体の比較検討から、原秩序の復原や編年は可能となるからです。

そこで、所蔵者の許可を得て原本調査を実施した結果、大きな研究成果が得られました。一つは免田文書にみられる土地帳簿群を作成・運用した人びとが相良氏の球磨郡支配を支えた実態を浮かび上がらせた、小川弘和氏（熊本学園大学教授）の研究です。もう一つ



右：調査の様子（写真提供：春田）

左：『列島の中世地下文書—諏訪・四国山地・肥後（アジア遊学 282）』春田直紀編、勉誠出版、2023

（4～5頁掲載の書影については、各出版社から利用許可を得ています）



は、似鳥雄一氏（高千穂大学准教授）の研究で、免田文書の地名データを活用して、文献上最古に近い14世紀の棚田の形状を立証し、中世において崖線が球磨川洪水の被害を抑制した事実も明らかにしています。小川氏の研究は武家領主の文書だけで描かれてきた地域の政治史を刷新するものですし、似鳥氏の研究は球磨川の洪水という現代的課題に中世史料からも迫りうることを示した画期的な成果といえます（両氏の研究成果論文は、春田直紀編『列島の中世地下文書』に掲載）。

以上の研究成果は、活字史料を見ただけでは決して生まれませんでした。地域史料には現代的課題にも応えうる潜在能力がありますが、その能力を活かすためには、史料の原本が観察できる条件（保存と公開）が整備されなければいけないのです。

大学院人文社会科学部教授
文書館運営委員会運営委員
春田 直紀

*翻刻とは、くずし字で書かれた古文書を活字化し、現代の人びとが読めるようにする作業のことです。

参加記一 免田事件と関連資料をテーマとした講義

(講師：甲斐 壮一 氏)

2022年11月30日、教養教育「現代政治の諸相C」(担当：金子秀聡先生)にて、熊本日日新聞社元記者の甲斐壮一さん(免田事件資料保存委員会、文書館市民研究員)が免田事件をテーマに講義を行いました。本館で保管させていただいており、『検証・免田事件[資料集]』(詳細は本頁下部)にも掲載された、免田さんからご実家宛の手紙や、獄中で手書きで写したという裁判記録の紹介もありました。裁判記録の写しには傍線が引かれ、メモが書き込まれています。これらの遺された記録からは、「なぜ自分が犯人とされ有罪とされたのか」、その問題点を忍耐強く洗い出した免田さんの闘姿が浮かびあがってくるようです。

「人が人を裁く以上は間違いが起きるといふこと。無実の人を誤って死刑にしてはいけない、免田さんが生涯をかけて訴えたことです」「免田事件で問われたことは過去のものでしょうか?」と、甲斐さんは学生に投げかけました。現在も動きがある冤罪事件としては、再審無罪となり遺族が国と県に損害賠償を求めている「松橋事件」や、2023年3月に再審公判が決定した「袴田事件」などがあります。また、「足利事件」では、DNA型の再鑑定により捜査の誤りが証明されるという科学的な進展が見られました。間違いに気づいたときに引き返すことが重要だと、甲斐さんは受講生に伝えました。

講義の最後に、犯人逮捕の報道のあり方について担当教員から問題提起がありました。逮捕の際の事件報道が、逮捕された被疑者こそが間違いなく有罪であるという印象を一般の人々に植えつけてしまう可能性についてです。やりとりからは、報道機関や報道関係者

にもまた、自らの過ちの検証が求められていることがわかりました。

資料保存委員会では、免田さんが「人間」として復活を遂げるまでの精神の軌跡を明らかにすることを目標に、獄中で読まれた本の目録作成と内容調査(印がつけられたりメモ書きされた箇所)が続けられています。裁判のあり方を越えた、私たちの社会にある人権意識そのものについて免田さんは問いかけていたのではないかと、甲斐さんは指摘します。有罪判決を受けた免田さんが「人間としての自分を取り戻す」とはどのようなことだったのか、現代社会における人権とはどうあるべきか、遺された資料から考える余地がまだまだありそうです。

免田栄さんの同級生で支援運動の中心となった恒松義国さんのご遺族(孫娘・関東在住)から資料利用申請がありました。恒松さんから免田さん宛の手紙を紹介した記事「免田事件資料を読む 手紙編⑦」(2022年8月26日付 熊本日日新聞)をお読みになったそうです。2022年12月、記事を執筆された甲斐さんにご同席いただき、恒松さん筆の手紙(甲斐さん保管)と、免田さんが恒松さんに言及されている手紙やはがき(文書館保管)をお見せしました。ご遺族にとっては、詳しくは知らなかったという祖父・恒松さんの生前の活動に直筆の文字を通して触れる時間となり、同じ空間にいた私たちにも静かな感動が伝わってきました。「資料」を関係者に見て喜んでいただく嬉しさとともに、その存在を伝える工夫が今後の課題であると感じました。

文書館 香室 結美

「免田さんの遺言」として編まれたという『資料集』刊行により、免田事件資料保存委員会は2023年度日本記者クラブ賞特別賞を受賞しました。おめでとうございます!

右：甲斐さんによる講義の様子

左：『検証・免田事件[資料集]』免田事件資料保存委員会編、現代人文社、2022



ハンセン病関係資料の収集

文書館の任務の一つに、ハンセン病関係資料の収集があります。

もっとも、ハンセン病関係資料は、熊本大学の比較的近くにある菊池恵楓園に多数所蔵されています。2022年5月には、菊池恵楓園内の社会交流会館が歴史資料館と改称され、その展示も充実しています。今では、歴史資料館のウェブサイト (<https://www.keifuen-history-museum.jp/>) も充実しており、ウェブサイトを通して、資料の所蔵庫の様子までも知ることができます。

最近、東京都にある国立ハンセン病資料館とその図書室に出張する機会がありました。そこでは、全国に点在するハンセン病療養所の歴史を含めた様々な資料の展示がある他、全国から集められたハンセン病関連の蔵書があります。この資料館の図書室は、郵送による蔵書の貸出サービスも行っていて、蔵書を検索し、読みたいと

いう本を郵送で送ってもらって、読むこともできるそうです (<https://www.nhdm.jp/services/library/>)。

文書館におけるハンセン病関係資料の収集は緒についたばかりという状況でして、以上で紹介した資料館のレベルには到底およびません。しかし、上記施設が国立であるが故に、ハンセン病差別の克服に向けて立ち上がった「らい予防法」違憲国賠訴訟の原告や弁護団が、療養所の職員などから陰に日向に様々な嫌がらせを受けたことなどの資料が置かれているわけではないようです。熊本大学文書館としては、国立の資料館には残らないであろう、そうした資料の収集・整理・保存・公開に努めていきたいと念じております。

大学院人文社会科学部教授
文書館併任教員
岡田 行雄

資料整理

2020年8月から文書館にて資料整理や事務作業に携わっています。現在は主に水俣病関係の写真の保存作業を行っています。写真ネガフィルムをデジタル化する際には、貴重なネガを扱うことから、一つ一つの作業工程に時間がかかります。しかし、ネガには当時の水俣の様子や患者家族の日常が写っており、それらを保存する作業に意義を感じています。

その他の業務では、資料の埃とり、書庫の温湿度管理や掃除など地道な作業も多く大変ではありますが、そうした積み重ねで資料が長く保存され公開されていくことがわかり、日々やりがいを感じています。

文書館 山本 彬子



写真ネガフィルムのデジタル化作業

文書館市民研究員の活動

- 免田事件関係資料担当 高峰 武, 甲斐 壮一, 牧口 敏孝
 - ・ 著作: 『検証・免田事件 [資料集]』免田事件資料保存委員会編, 現代人文社, 2022
 - ・ 関連記事: 「不謹慎な旅 第56回 獄中で刻んだ“生きる”- 『免田事件』資料」『週間 金曜日』1411号 2023.2.10, pp. 34-37, 木村聡 (写真・文)
- 水俣病関係資料担当 富樫 貞夫, 入口 紀男, 有馬 澄雄, 向井 良人
 - ・ 資料整理と調査: 青林舎製作ドキュメンタリーに関する音声テープ (有馬)
 - ・ 資料整理と調査: 水俣病研究会資料 (向井)

資料整理・研究に関わる業務にご参画いただいております

科学研究費採択状況

- ・ 基盤研究 (A) 「21世紀における他者の痛みの交差性: <水俣病>事件アーカイブズ研究の人類学的展開」研究代表者: 慶田 勝彦, 2022~2026年度 4,186万円
- ・ 若手研究「水俣病関係写真の歴史性に関する人類学的アーカイブズ研究」研究代表者: 香室 結美, 2020~2022年度 416万円

見学受付と資料保存の取り組み

2022年度は6件の見学があり、本館の所蔵資料や寄贈資料の受入れ、日々の業務、設備や温湿度管理の状況についてご案内しました。

本館は2020年度に書庫を拡張し（約260㎡増）、ひきつづき寄贈資料を受入れています。書庫には温湿度管理（湿度のみ50%で調整）や空気を循環させるための設備、消火設備、防犯設備が備わっており、担当者が日々、管理、清掃しています。書庫に保管されている資料は、日々のケアを怠るとカビや埃で劣化したり、有害ガスを発生させて書庫を汚染したりします。そのため、資料受け入れの際にはブラシ等によるドライクリーニングを行い、ホッチキス等の金属類を取り外し、新しい保存箱に移し替え、有害ガスを発しているフィルム等にはガスを吸着するシートを用いるなどして、劣化と汚染を

防いでいます。

なお、本館では音声磁気テープや映像フィルムも多数所蔵していることから、湿度35%、温度25度以下に調整した「特別管理室」を設け、ゾーニングスペースとして活用しています。

予算や労力、知識や技能面での課題はありますが、異常にいち早く気づくためには、日頃からの書庫利用、そして見回りとケアが一番かと思えます。また、利用、点検、デジタル化の際に資料が新鮮な空気にさらされ、汚染物質が発散されます。資料を利用に供するという活動意義の観点からのみならず、長期的な保存と活用を目指す意味でも、資料を書庫や保存箱に入れたままにしないよう利用件数を増やす取り組みを行いたいです。



文書館書庫



熊本大学学生広報スタッフによる見学の様子
本学広報誌『熊大通信』vol. 85, p.12(2022)
にて本館が紹介されています！

2022年度を振りかえって

2022年度は、パンデミック状況が少しずつ改善に向かいつつある兆しが見えた一年でした。前年度同様、所蔵する資料に関する作業については、感染に十分注意しながら進め、他方で、資料の公開などについては対面での開催を実施しました。

具体的には、12月5日（月）～16日（金）に、企画展として「末吉駿一コレクション 熊本の水とむきあう」を、熊本大学全学教育棟1階E102 文書館資料調査研究室において開催いたしました。末吉駿一氏は季刊誌「くまもとの旅」の元編集長で、2019年3月に文書館に貴重な資料を多数ご寄贈いただいております（2022年度に102点追加）。それらは末吉駿一コレクション（4059点）として維持管理され、目録も公開されております。ただ本当に残念なことで、この企画展が開催される直前に末吉氏は他界され、実際の展示会場にお運びいただくことはできませんでした。しかし、来場者数は総計 119名となり、末吉氏の足跡

を多くの方々にたどっていただけたのではないかと思います。末吉氏のこれまでのご協力に深く感謝の意を表するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

文書館でのさまざまな業務を遂行するに当たり、今年度も、市民研究員（＜水俣病＞事件関係：4名、免田事件関係：3名）のご協力をいただいております。特に今年度は、市民研究員の方々の業績として、書籍『検証・免田事件 [資料集]』（免田事件資料保存委員会編、現代人文社、2022年8月）が出版されました。文書館の資料の活用やその他の活動に、日頃よりご尽力いただいていることに深く感謝申し上げます。

なお、文書館の全容と各年度の重要事項につきましては、ホームページ上にて随時更新されてゆく「NEWS&TOPICS」及び「活動報告」にてご確認いただけます。

第3代文書館長（2021～2022年度） 田中 朋弘

所蔵・公開資料



●大学史

- 熊本総合大学期成会資料 (2,050点)
- 熊本大学30年史編集室資料 (1,031点)
- 山崎正董関係資料 (59点)
- 旧制諸教育機関一覧 (516点)
- 熊本大学大学院生命科学研究部細胞病理学分野資料 (252点)
- 福田昇八資料 (186点)
- 熊本大学応援団資料 (9点)
- 熊本高等工業学校採鉱冶金学科関係資料 (229点)
- 熊本大学医学部附属病院移管資料 (49点)
- 熊本高等工業学校採鉱冶金学科関係映像資料 (4点)
- 岳中典男資料 (164点)
- 熊本県師範学校関係資料 (2点)
- 熊本大学発行・刊行物 (6845点) ※2022年度末時点, 順次公開中

●熊本地域

- 末吉駿一コレクション (4,059点)
- 安永蒔子関係資料 (120点)
- 熊本地域文化財・遺跡関係資料 (180点)

●免田事件

- 免田栄資料 (861点) ※2022年度末時点

●水俣病

- 水俣病研究会資料 (285点) ※2022年度末時点, 順次公開中
- 岡本達明資料 (3,835点) ※2022年度末時点, 順次公開中
- 衛藤光明資料 (98点)
- 甲斐文朗資料 (8点)
- 熊本大学大学院生命科学研究部細胞病理学分野資料 (252点)
- 丸山定巳資料 (4211点, 図書 2245点)
- 徳臣晴比古資料 (214点)
- チッソ水俣病関西訴訟関係資料 ※公開準備中 ほか

2023年度 組織・スタッフ

館長 宮崎 誓
併任教員 慶田 勝彦
岡田 行雄
牧野 厚史
特別研究員 / 特任助教 香室 結美

事務補佐員 山本 彬子
技術補佐員 木原 実咲
文部科研事務支援者 阿南 満昭
古田 絵里

【運営委員会】

委員長 宮崎 誓 (文書館長)
委員 慶田 勝彦 (大学院人文社会科学研究所教授)
委員 春田 直紀 (大学院人文社会科学研究所教授)
委員 岡田 行雄 (大学院人文社会科学研究所教授)
委員 五十嵐 孝一 (図書館課長)
委員 尾方 富美代 (総務課長)
委員 香室 結美 (文書館)

2022年度 組織・スタッフ

館長 田中 朋弘
併任教員 慶田 勝彦
岡田 行雄
牧野 厚史
特別研究員 / 特任助教 香室 結美

事務補佐員 高田 千紗子
古川 洋子
文部科研事務支援者 阿南 満昭
木原 実咲
鈴木 つむぎ
山本 彬子

【運営委員会】

委員長 田中 朋弘 (文書館長)
委員 慶田 勝彦 (大学院人文社会科学研究所教授)
委員 春田 直紀 (大学院人文社会科学研究所教授)
委員 岡田 行雄 (大学院人文社会科学研究所教授)
委員 濱崎 千雅 (図書館課長)
委員 木下 聖一 (総務課長)
委員 香室 結美 (文書館)

熊本大学文書館 2022年度報告 ニュースレター 第3号

発行日 2023. 8. 10
編集発行 熊本大学文書館

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39-1
(南キャンパス・旧共用棟黒髪4)
TEL 096-342-3951 FAX 096-342-3952
Email : archives@jimu.kumamoto-u.ac.jp
http://archives.kumamoto-u.ac.jp/index.html

利用案内

開館日 月～金
休館日 土・日・祝 / 年末年始 / 夏季一斉休業日 / その他 臨時休館日
利用時間 10:00 ~ 16:30
業務 (1) 閲覧 (2) 撮影複写 (3) 貸出し
(4) レファレンス (5) 展示
※ いずれも要事前連絡
※ 資料複製の郵送・メールでのデータ送信は行っていません

撮影者名や提供者名のない写真は
文書館が撮影したものです

[表紙写真] 2022年度 文書館 現場スタッフ
撮影: 豊田 有希



過去のニュースレターはこちらからご覧いただけます